

# 十二 舞子の浜

垂水の西から山田川の東までの浜は「舞子の浜」とよばれ、須磨とやらんで風光明媚な名所として有名です。「舞子」という地名の由来について、地誌「明石記」では「この辺りに潮流が舞い込む浜なので廻込浜といった」とあります。また、様々な言い伝えがあり、平安時代に在原行平が淡路島を望む白砂青松の景色をとっても好み、ここで乙女に舞を舞わせて楽しんだことからこの名が起ったとも、平清盛が美しい童に舞を舞わせたので「舞子」といわれるようになったとも、さらには、松の姿が舞子の舞うのに似ているからだともいわれています。江戸時代には、景勝の地として参勤交代の格好の休憩所となり、たくさんの休憩茶屋が建ったといえます。明治時代には、明治天皇をはじめご一家がたびたびおこしになり、明治二十七年（一八九四）に有栖川宮が別荘（今の舞子ビラがその跡地）を建てられてから、皇族がたびたび泊まりました。

今では、淡路や四国への道として世界最長の吊り橋である明石海峡大橋が開通し、新たな観光名所となっています。



「播州名所巡覧図絵」舞子の浜

## 主な見どころ

**舞子若宮神社**  
東舞子の厄神さん、もも六神社、舞子六神社の神輿渡御の際のお旅所であったが、当時の国鉄の高架化や踏切の廃止などにより神輿渡御も中止された。1月18日に厄除祭などがあがる。

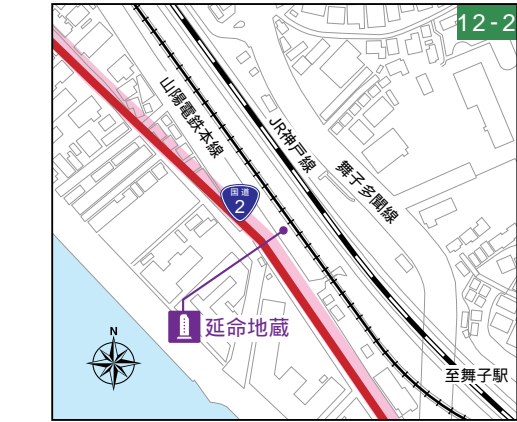
**延命地蔵**  
文政8年（1825）に漁船の安全と悪病が入り込まないことを祈願し、明石藩に願い出て安置されたといわれる。木槌でたたきながら一つだけ願い事をする、かなえてくれるとも伝えられている。

**六神社**  
六社さん、元禄2年（1689）創建。御祭神は、江戸時代前期に明石・岩屋神社より御分霊を勧請して山田村の鎮守としたと思われる。7月24日の夏祭では、40張ほどある行灯掛けが行われる。

**大歳山遺跡**  
大正11年ごろに縄文時代前期のものと思われる土器が発掘された。復元された竪穴式住居と前方後円墳がある。

**舞子タワー**  
高さ103.5mより明石海峡を一望できる。10時～18時、月曜定休、祝日、皇業祭日休。500円。076-786-119-1

**孫中山記念館**  
中国人貿易商の呉錦堂により大正4年ごろ建築された。塔の各窓からそれぞれ異なる景色が眺められ、それによって心が移っていくことから「移情閣」と名付けられた。県指定重要文化財。10時～17時、月曜定休、祝日、皇業祭日休。400円。076-783-7172



**明石海峡大橋**  
全長3911m。主塔と主塔との間の距離1991m。主塔の高さ293.3mの世界一の吊り橋。平成10年4月5日開通。日没後には年間を通して20種類のパターンでライトアップされている。

**橋の科学館**  
模型や3D映像などの多彩な展示で、明石海峡大橋を分かりやすく紹介。9時30分～18時。200円。076-784-3333

**舞子海上プロムナード**  
橋の中の遊歩道。展望台からは瀬戸内の光景と橋の美しい構造を間近に見られる。9時30分～21時30分。火曜休。500円。076-785-5090



明石海峡大橋と移情閣

A legend box with a pink header and a white background. It contains six icons arranged in two columns. The left column has a red line with a circle at each end, a pink rectangle, a red square with a white symbol, and a green square with a white symbol. The right column has a blue square with a white symbol, a purple square with a white symbol, and a purple square with a white symbol.

